令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立下落合小学校 ）　　学校番号　０８２　　【様式】

目指す学校像	「安全・安心・信頼」を基盤に、一人ひとりが輝き、思いやりあふれるあたたかい学校

重点目標	
	１　ICT機器（タブレット端末等）を活用した、児童が主体的に学ぶことができる授業の充実 ２　安心・安全な学校に向けた教育環境整備及び教育相談・生徒指導体制の充実 ３　コミュニティ・スクールによる学校と地域の連携・協働の推進、情報発信の充実 ４　教職員の授業力の向上と学校業務の改善

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日　令和６年２月１５日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに、市、全国平均と比べ概ね良好な結果である。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する質問に肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べやや低い傾向にある。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査で、「思考・判断・表現」の記述形式の問題の正答率がやや低い。 ○日頃の学習の様子から、課題解決に向け、自分で思考することや自分の考えを表現することにやや消極的なところが見られる。	・「個別最適な学び」の推進に向けた ICT の活用、授業改善	①教育委員会による学力向上カウンセリング訪問を要請し、本校の学習状況調査結果を分析し、授業改善にいかす。 ②スタディサプリ、ドリルパークを学校及び家庭において活用し、児童が主体的に学ぶことができるようにする。 ③児童のタブレット PC 使用についての使い方やルールを再度確認する。	①学力向上カウンセリング訪問を実施し授業改善にいかすことができたか。 ②学校評価（児童）「授業の内容はわかりますか」の肯定的評価が 90%以上になったか。 ③ICT 活用状況調査において、「ICT 活用の日常化」の肯定的な回答が増えたか。	○学力向上カウンセリング訪問を実施し、調査結果の分析を基に授業改善にいかすことができた。 ○学校評価（児童）「授業の内容はわかりますか」の肯定的評価が 93%となった。 ○ICT 活用状況調査で、「ほぼ毎日」が 42%となり ICT 活用率が向上した。(R4　16.4%) 「週３回以上」の回答を加えると 76%となり市平均を 7%上回った。	A	◆学習の理解度に個人差が大きい傾向にあるため、画一的な授業を改善し、個々の学習状況に応じた基礎学力定着の時間を設定する。 ◆全体の前で自分の考えを発表することに消極的な面が見られる。ICT を効果的に活用し、友達の考えを取り入れながら主体的に課題を解決できるようにする。	・授業の内容を理解している児童が多いことが、学校評価の結果からわかった。 ・ICT の活用についても調査の結果から向上していることがわかった。学校公開や授業参観を通して、実際に ICT を使っている様子を見ることができた。 ・ICT について、正しい使い方ができるよう引き続き指導をしてほしい。
		・学びのポイント「じ・し・や・ク」につながる教育実践の推進	①年１回以上「学びのポイント」を踏まえた公開授業を全教員が行う。 ②「STEAMS TIME」で、教科横断型「探究的な学び」の単元を計画し、実践する。	①「学びの指標」アンケートの結果の平均値が参考値を上回ったか。 ②外部講師等を活用し、探究的な学びを実施できたか。	○「学びの指標」アンケートでは、市の参考値と比べ、差が見られなかった。 ○「STEAMS TIME」で、教科横断型「探究的な学び」の単元を計画し、実践できた。	A	◆児童が主体的に課題を発見し、協働しながら解決する探究的な学びを充実する必要がある。外部企業や外部人材を活用した学びを積極的に取り入れる。	
2	〈現状〉 ○R4 学校評価（保護者）「施設設備」77%が肯定的な評価を回答した。 〈課題〉 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、組織的に支援していく体制を一層充実していく必要がある。 ○近隣への落葉等を考慮し、樹木の剪定や除草作業を定期的に行う必要がある。 ○潤いのある環境づくりのため、清掃活動に力を入れていく必要がある。	・多様な教育的ニーズに応じた特別支援・教育相談体制の充実	①情報端末を活用して児童アンケートや面談等の記録を蓄積し、児童ひとり一人の状況を継続的に把握できるようにする。 ②SSW、SC を活用し、関係機関等との連携を図る。 ③ケース会議を実施し、情報共有と組織的な対応を行う。	①情報端末を活用した記録の蓄積を行い活用できたか。 ③関係機関等と連携し、家庭や児童への支援を継続的に行えたか。 ③月に２回以上、ケース会議を実施することができたか。	○情報端末を活用し、各学年のファイルに面談等の記録を残し、情報共有や児童への指導に活かすことができた。 ○SSW を活用し、家庭や児童の状況を踏まえながら関係機関等につなげ継続的な支援が行えた。 ○月に２回以上ケース会議を実施し、組織的な対応を行うことができた。	A	◆「困ったときに相談できる」について、朝の時間を使って担任が全員と面談する取組を行う。 ◆スクールダッシュボードにおける「おはようメーター」から児童の SOS を把握し、教員が抱え込むことなく、組織的な初期対応を迅速に行えるようにする。	・学校で教育相談体制を充実させるために、児童アンケートや面談等、様々な取組を実践していることがわかった。 ・相談体制については、学校だけでなく地域においても相談できる場を増やしていきたい。 ・下校時の歩き方で心配な点が見られる。学校だけでなく、家庭や地域でも見守り、指導していく必要があると感じる。
		・安心・安全な学校生活のための教育環境の整備	①教育委員会と連携し、施設の不具合を迅速に改善する。 ②毎月 10 日の安全点検を活用し、要修繕箇所の迅速な修繕を行う。 ③環境美化活動に地域や PTA の協力を得る。	①学校評価（保護者）「施設・設備」肯定的な評価が 80%以上になったか。 ②毎月の安全点検実施から 10 日以内に修繕が実施できたか。 ③外部団体等によるクリーン活動を実施できたか。	○学校評価（保護者）「施設・設備」の肯定的な評価が 81.9%となり目標値を上回った。 ○毎月の安全点検実施から 10 日以内に軽微な箇所の修繕が実施できた。 ○PTA の協力で落ち葉清掃を実施したり、バラの植替えを行ったり、環境美化に努めた。	A	◆「廊下歩行や下校時の歩き方について」課題が見られる。児童の安全に対する意識向上のため、あんぜんタイムを充実する。 ◆「教室や廊下等の環境について」不要な掲示は廃棄したり収納できるスペースを増やしたりする。	
3	〈現状〉 ○R４年度、学校運営協議会を設置し、目指す児童の姿について熟議し、学校、家庭、地域が協働し育成していくことを共有した。 ○R４学校評価（保護者）「学校は、地域と連携し、子どもたちの安全を守るために適切に取り組んでいるか。」94%が肯定的な評価を回答。防犯ボランティア、下子連等の協力が大きい。 〈課題〉 ○コロナ禍で地域の方が、学校の教育活動を御覧いただける機会が減っていたため、学校の教育活動の情報発信や相互理解が行いにくい。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するための情報発信	①学校 HP に教育活動の様子を掲載する。 ②学校からの情報発信を紙ベースから HP に切り替える。（学校安心メールとの併用）	①学校 HP の定期的な更新と充実ができたか。 ②紙媒体での配布物を減らし、電子媒体による情報発信を増やせたか。	○学校 HP をリニューアルし、毎日の給食の写真を掲載した。学校運営協議会や周年行事の内容を保護者や地域に発信できた。 ○夏季休業中の課題の HP 掲載と活用は定着している。毎月の学校だよりや学年だよりは紙媒体での配付を継続している。	B	◆　学校からの情報発信を紙ベースから HP に切り替えペーパレス化を進める。 ◆「進んであいさつ」について、学校だけでなく、家庭、地域と協働し取り組む。家庭からの働きかけを増やしてもらえるようにする。 ◆地域人材の活用を指導計画に位置付け、体験的な学びを推進する。	・今年度は開校７０周年の記念行事も多く行われ、地域と学校のつながりを深めることができたと実感している。 ・学校・家庭・地域であいさつ運動を取り組めたことで、挨拶をする子どもが増えたように感じる。 ・地域の行事や子ども会のお祭り等の活動を通して、地域でも子どもたちを育成していきたい。
		・学校運営協議会による学校と地域の連携・協働の推進	①熟議を重ね、具体的な取組の日程や役割分担を話し合う。 ②開校７０周年実行委員会と連携し、記念行事を実施する。	①学校運営協議会を３回実施し、児童の育成について当事者意識を高めることができたか。 ②学校・地域・保護者と連携した取組を実践できたか。	○学校運営協議会を３回実施した。事前に熟議のテーマを伝えることで、活発な話合いを行うことができた。 ○２月に学校・家庭・地域が連携し「みんなスマイルあいさつウィーク」を実施した。 ○周年行事や地域のお祭りを通し、子どもたちを地域と協働し育成する機運が高まった。	A		
4	〈現状〉 ○授業における ICT の活用について、学校課題研修で研究を重ね、教員の ICT 活用スキルが向上している。 ○高学年の教科担任制の実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができ、授業の質が向上している。 〈課題〉 ○授業における ICT の活用について、学年、教科等で取組の差が見られる。 ○時間外在校等時間は減少傾向にあるが、業務の負担感や多忙感が教職員に見られる。	・児童の「主体的・対話的で深い学び」を推進するための指導力の向上	①ICT 活用による授業改善を学校課題研修のテーマに掲げ、学びのポイント「じ・し・や・クの学び」につながる授業を教員全員が公開する。 ②受講奨励を行い、教員の主体的な学びを推進する。 ③優れた実践に関する資料等を蓄積し共有する仕組みを整備する。	①学びのポイント「じ・し・や・クの学び」につながる授業を全教員が実践し公開したか。 ②教員のキャリア段階に応じた主体的な研修が行い授業等にいかせたか。 ③校務支援システムやチームスをいかし資料等の共有や活用を推進できたか。	○学びのポイント「じ・し・や・クの学び」につながる授業を全教員が実践し公開できた。 ○管理職による研修受講奨励を行い、キャリア段階に応じた研修を主体的に行い、授業にいかせた。 ○校務支援システムやチームスをいかし、資料等の共有や活用を推進できた。 ○教員の指導力の向上のため教育委員会から指導者を要請し、授業研究会を実施した。	A	◆学校課題研究を充実し、児童の「主体的・対話的で深い学び」を推進するための教員の指導力の向上を図る。 ◆キャリア段階に応じた学びを充実できるよう、指導者を迎え「下小ゼミ」を定期的に行う。	・教職員の授業力を向上するために、教育委員会から指導者を要請する等、学校で様々な取組をしていることがわかった。 ・今年度、日課表を変更したことで放課後に仕事を行う時間が増え、働き方改革につながったと感じる。
		・学校業務の改善と子どもと向き合う時間の確保	①ICT による事務の効率化を図る。 校務におけるクラウドの活用。 ②勤務開始時刻（始業時刻）を早め、放課後の時間の有効活用ができるようする。年休等を活用し月に１回以上の定時前退勤を推奨する。 ③一人で業務を抱え込まないよう、業務を分担し、協働共励を促進する。	①ICT による業務改善を推進できたか。 ②教職員の時間外等在校時間を月 45 時間以内にできたか。 ③担任以外の教員やスクールアシスタントを効果的に配置し活用できたか。	○ICT による業務改善を推進できた。 ○教職員の時間外等在校時間は全職員の平均時間が 29 時間となった。 ○スクールアシスタントの配置計画を毎週見直し、担任の指導補助や配慮が必要な児童の支援を効果的に行えるようにした。 ○勤務開始時刻を早め、放課後の時間を増やすことで授業準備の時間を捻出できた。	A	◆登下校の安全確保等、保護者や地域と協働していけるよう子ども会や自治会と連携を深める。	